

昭和59年
3月10日
発行
第103号

発行所
日本赤十字新労働組合連合会
(日赤新勞)
東京都港区虎の門3-24-7
(庚申ビル)
TEL 03-432-1089
発行責任者
掛井 巖

日赤新勞

綱 領

1. 吾々の労働生活は、社会生活の中心として、労働者の権利を守り、労働生活の向上に努め、社会生活の発展に貢献する。

2. 吾々の労働生活は、社会生活の中心として、労働者の権利を守り、労働生活の向上に努め、社会生活の発展に貢献する。

3. 吾々の労働生活は、社会生活の中心として、労働者の権利を守り、労働生活の向上に努め、社会生活の発展に貢献する。

伊豆長岡町「青雲荘」で59年2月19～21日

第23回定期全国大会盛大に開催

59年度運動方針を決定 '84賃上げ要求に向け強固な団結確認

温暖の地、伊豆地方も連日の寒さに伊豆連山に雪が降り、全国からの参加には厳しい交通事情の中、全国各地の加盟単組の代表、オプザーバー及び本部役員、顧問等多数の出席のもと、第二十三回日赤新勞定期全国大会が伊豆長岡「青雲荘」において二月十九日から二十一日の三日間盛大に開催され、今後一年間の重要な組合活動の中心となる運動方針、闘争方針等を決定した。

報告事項

議事に従い、開会宣言の後、日赤新勞歌合唱、資格審査、成立を承認し、大会規約に従って大会役員(二副)を選出し、大会役員(二副)を選出した後、議長団選出に移り、議長に青山圭一氏(岡山日赤)、副議長に実藤春夫氏(福岡支部)、大会書記に樹下成徳氏(大津日赤)の三氏を選出。川出中央執行委員長より五十九年度のベアスアップ問題についての決意を述べた後、各報告事項、審議事項が慎重かつ活発な討議の後に承認、決定された。

審議事項

一、昭和五十九年度運動方針(案)について



第23回定期全国大会風景

報告事項

今後一年間の新勞活動の基本となるものであり、活発な賃上げ要求の後、スローガンを含め本部原案とあり可決された。

役員改選

昭和五十九年度本部役員が次々と選出された。

大云宣言

日赤新勞は、第二十三回定期全国大会を二月十九日から二十一日の三日間にわたり、伊豆長岡町「青雲荘」において開催した。



中央執行委員長 川出富治

八四春闘は一月三十一日、主要労働団体の要求基準をみてみると、春闘共闘六六以上、同盟六六基準、全労協六六以上、IMFJC六六基準、回復過程に入り、総選挙で久しぶりに野党勢力が伸長したという労働側にとって有利な条件があること。また総評主力単産の私鉄総連が、これまでの春闘枠組みを打破し、JC回答前にヤマ場を設けて回答を引き出すという姿勢をみせていることである。

一九八四年賃上げについて

中央執行委員長 川出富治

延期することにし、その後、活発な意見が交換され、次期大会までに各単組で慎重に検討することにし、とりあえず現在の事務所を二年契約することを決議した。

日赤新勞

第23回定期全国大会

59年度新執行部です

中央執行委員長 川出 富治 (名古屋第1赤十字病院)

中央会計 大向 広治 (八戸赤十字病院)

会計監査 星野 馨 (茨城血液センター)

副執行委員長 高橋 利行 (福島赤十字病院)

中央執行委員 工藤 晃 (青森県支部)

会計監査 川崎 実二 (大津赤十字病院)

副執行委員長 松本 晃 (鳥取赤十字病院)

中央執行委員 小貫 幸枝 (大田原赤十字病院)

顧問 宮野 政夫 (新潟血液センター)

中央書記長 掛井 巖 (浜松赤十字病院)

中央執行委員 湯本 武子 (飯山赤十字病院)



大会宣言の朗読
黒田美知子(大田原日赤)

★
第23回定期全国大会役員構成
★

- 役員詮衡委員**
藤村 貴順 (盛岡日赤)
菊地 美千夫 (芳賀日赤)
大江 融 (愛知血セ)
富江 武司 (大津日赤)
川島 環 (鳥取日赤)
渡辺 邦男 (筑前山日赤)
- 選挙管理委員**
福井 進 (八戸日赤)
牧田 道明 (浜松日赤)
森 一博 (名二日赤)
宮尾 行雄 (岡山日赤)
伊藤 博人 (筑前山日赤)
- 議事運営委員**
早乙女 正人 (石巻日赤)
- 宣言文起草委員**
石黒 泰男 (名二日赤)
入川 富夫 (鳥取日赤)
杉町 正敏 (唐津日赤)
坂本 樹由 (足利日赤)
武井 重晴 (豊橋血セ)
- 議事確認者**
坂本 樹由 (足利日赤)

北から
南から

スキー教室へ80名余が

名二日赤労組

名二労組は二月十一日、十二日の連休を利用して恒例のスキー教室を岐阜・流葉スキー場において開催した。今年も連休活用で、二泊三日のスキー教室を計画したところ、八十余名の参加者があった。

計画、実行と、伊藤レク部長を中心にレク部員の閉結したチームワークにより、盛んな教室が運営された。流葉スキー場は団体も開催された所で、上級、中級、初心者コースと多彩なコースがあり、有意義な二日間でした。(第三ブロック通信員・梅村正二)



ゲレンデを占領?した名二日赤労組のスキー教室

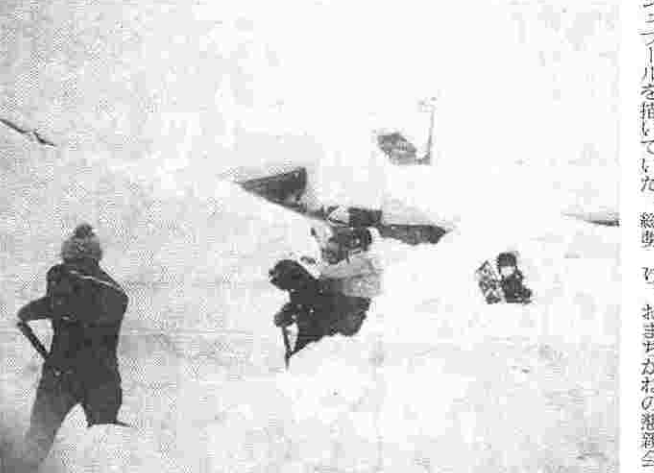
ああ「豪雪」

飯山日赤労組

夏は夏で二年連続の水害、そしてこの冬は、四十年振りの「大雪」以上の「豪雪」である。実に昭和二十年以来のことである。雪量は三、多い所では四、五尺にもなっています。モーターゼーションの世の中、交通確保しなければ市民生活はマヒしてしまふ。そのため連日ブルドーザーが出動して道路の除雪に懸命で、道路の両側には、見上げるばかりの雪の壁が出来ている。

市街地にある消雪パイプの威力も今年の雪には勝てず、至る所で車の渋滞が続き、普通なら五、六分で通過できる距離が一、二時間もかかる日が続いています(これはただは大会のラッシュ並みか)。民家では「雪おろし」を何回もしなくては家が押しつぶされる。

外に出て、空を見上げては雪が少なくなるわけがなく、暗れ



豪雪とのきびしいたかひの毎日が(飯山日赤労組)

38名でスキー大会開く

盛岡日赤労組

昨年から始めた、スキー大会を八戸日赤、日赤乳児院の参加を得、一月二十八、九日、アスキーヤーがあせんとする場面も見られるほどであった。冬場年はスキー教室という形で、開催したこともあって、今年も最高という感じだ。汗をかいた後は、温泉にひたし、おまかせの懇親会。底の

間には家族総出で(写真)雪おろしです。屋根から下ろした雪の捨て場がなく、家のまわりは雪の山となり、隣りの家も見えなくなるほどです。除雪費用は四億円をはるかにオーバーしたとか、死亡者も十名以上も出ています。今夜も降り続けている。雪の「しんしん」と降るとは表現はロマンチックですが、今年の雪は「ずしり、ずしり」と降りまくる。春になれば自然に帰って行く雪ですが、何んともやるせない雪国の宿命です。除雪手当、除雪休暇……心からの願いで



汗をかいたあとは楽しい懇親会(盛岡日赤労組)



八幡平ハイツ

昭和59年5月11、13日
中央委員会開催